

吉富文芸

短歌・俳句・川柳
詠歌紹介

短歌

吉富短歌会 令和五年二月一日 住民福祉センターひだまり

残月のうす明かり牙ゆあら玉の年如何なるや深呼吸せり

千原かほる

寒波来て今朝は真白な庭先に猫の足跡のみの続きぬ

石井眞理子

晴天に三世帯揃って初詣幸せかみしむ年始めかな

今村澄江

天仲寺山の石段照りてすがすがし町にあまねく元日の陽光

恒成美代子

初場所の十両優勝朝乃山幕内復帰を待ち望むファン

城戸幸子

佐井川の浅瀬にたはむる鴛鴦わしどりは雄おすを追ふおす雌メスの飛びたつ

佐田正子

大寒のことば通りにこの冬は鍋に汲み置く水も凍りて

虻川内英一

連続し双子卵にゆき当り年の始めに福は巡りつ

北崎真紀

道すがらやぶ椿の朱落花もまた風情のありてしばし佇む

前澤千里

極寒に花咲かせをり野水仙一輪差しの香りほのかに

高時敬子

学友の訃報を聞きし今もなほ信じられずに昔を思ふ

一木月子

雲海のこのパノラマを見ずやして戦争続くるや二〇二三年

尾坐新子

俳句

守口 薫

雲雀鳴きりハの歩数を増やしけり

里の陽に包まれ育つ麦芽かな

父と母に足どり揃え麦踏みぬ

冬尽きて風の読めない世相かな

冬尽きて検査結果は良となる

奥家康子

窓越しの声高らかに鬼やらひ

陽光のきらめく川面寒明くる

梅東風や農業日誌たしかむる

玻璃窓に閉店とあり春寒し

白梅を追ふて紅梅咲き競ふ

川柳

橋口 登

補聴器をつけているのに聞こえない

咳が出るコロナインフル花粉どれ

豆まきにコロナインフル投げ返す

「わあ雪だ」期待の割りにダルマ出ず

さあ歩こう室内散歩三分間

香典返し寄附

ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

●吉富町社会福祉協議会へ

(2月2日受付分まで)

香典返し寄附

竹内 一代 様 (鈴熊)

横川 猛 様 (今吉上)

太田 東機 様 (別府)

梅津 富子 様 (幸子古)

高橋 弘泰 様 (幸子上)

山本 忠昭 様 (豊前市)

お悔やみ

ご冥福をお祈りします。

(2月1日受付分まで)

高橋 芳子 様 99歳 (幸子上)

藤本 満 様 80歳 (昭和)

松田 國夫 様 88歳 (広津下)

矢野 目なつ子 様 79歳 (広津上)

山崎 ティ子 様 73歳 (喜連島下)